



支部長 光野 敦子



猛暑の候、会員の皆様にはお変わりなくお過ごしのこととお慶び申し上げます。

昨年よりほぼコロナ前の日常に生活に戻り、様々な活動に制限がない状態になってまいりました。そのような中で昨年、日本女子体育大学百周年記念の年でしたが、10月の記念式典には多くの来賓の方々が参加され、式典後半の各部活動の演技発表等も盛大に行われました。現役高校生・大学生の演技はどの団体も一つ一つ大変素晴らしい演技で、日頃の練習成果を十二分に発揮されたものであったと同時に、「若い力」「若さの美」「躍動感」に大変感動させられました。

また翌日のシンポジウムでは山川純先生、金井芙三江先生、石崎朔子先生をはじめ各界の著名な方々からの素晴らしいお話を伺うことができました。私達の世代がお世話になった先生方にお会いできるだけでも大きな喜びでしたが、それぞれの先生方からのお話は在学中には聞くことのできない大変興味深いものであり、もっと長い時間聞かせて頂きたかったと感じるほどでした。

埼玉県支部からも記念館に残される銘板を送らせていただきましたので、記念館にお立ち寄りの際には是非ご覧になって頂ければ幸いです。

そしてもう一つは、令和6年度の松徳会評議員会が5月12日（日）に日女体創立百周年記念館で開催され、全国各地から（韓国支部からも）県代表の評議員が集まりました。役員改選の年でしたので、本部役員の選挙も行われましたが、松徳会会長には前年度からの引継ぎで山下敬緯子さんが承認され、新たに副会長には松徳会理事長（埼玉県支部前支部長）の高橋嘉子さんが選挙の結果当選され、任命されましたのでご報告申し上げます。

松徳会の活動は地味ではありますが大学生に大変意義ある貢献をしております。ですが私自身もそうでしたが、大学生の時にはそのことにまったく気付いておりませんでした。今こうして立場が変わって松徳会の活動に関わってみますと、松徳会会員の方々の少しずつのご協力が大学の一部を支えていると言っても良いと思います。

今後日女体卒の若い世代の方々に日本の社会の一員としてご活躍頂くためにも、より一層のご理解ご協力をよろしくお願い致します。



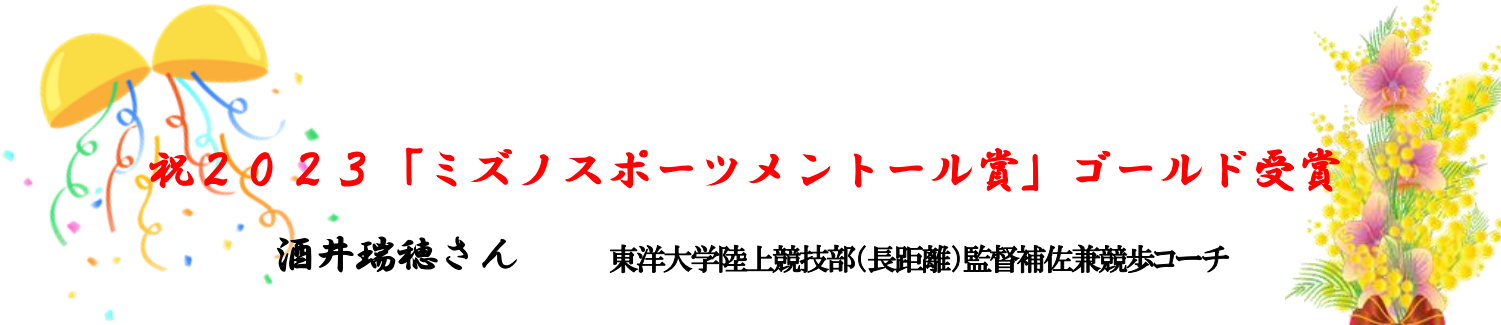
令和5年度松徳会埼玉支部総会報告

令和5年度日本女子体育大学松徳会埼玉県支部総会は、令和5年8月6日（日）プリランテ武蔵野6F「藤の間」で開催されました。総会・講演会は16名の会員皆様にお集りいただきました。令和4年度活動報告・決算報告、令和5年度活動計画案・予算案が無事承認されました。

総会後の講演会では、「今の世代の生き方・働き方」をテーマに福吉優美子さんのお話を伺いました。福吉さんは、川越市立鯨井中学校保健体育教諭として勤務され、ご自身の大学生活、昨今の学校事情・授業の様子などをスライドで分かりやすく紹介されながらのお話でした。そして、実際の授業でアイスブレイク、体づくり運動で行われているエクササイズとアルティメットを体験させていただきました。新鮮な体験で参加者一同感心し、爽やかな気分で終わることができました。

※アルティメット：1968年、アメリカ発祥のスポーツ。フライングディスクを落とさずパスして得点を競う。





祝2023「ミズノスポーツメントール賞」ゴールド受賞

酒井瑞穂さん

東洋大学陸上競技部(長距離)監督補佐兼競歩コーチ

2023「ミズノスポーツメントール賞」最高位ゴールド(令和6年4月23日表彰式)を受賞された同窓生、酒井瑞穂さんについてメール取材報告の一部を紹介します。日本スポーツ協会と日本オリンピック委員会の共催である素晴らしい受賞に合わせ、パリオリンピックまであと1か月と迫ったこの時期に、メール取材させて頂くことができました。

鈴木 祐子(平成8年卒)埼玉県支部役員

質問1 種目「競歩」を選択した理由は何ですか。

もともとは長距離に取り組んでいましたが、高校2年生のときに長距離ブロックの練習の一環として、当時の陸上部顧問の恩師に勧められたことがきっかけとなり、競歩を始めました。高校駅伝と両立しながら取り組んでいましたが、競歩で全国大会に入賞し、思いがけず競歩の方でよい結果が出たこともあり、大学では競歩に専念することに決めました。

質問2 「競歩」の印象について、続けることで見てきた変化は何ですか。

はじめは自ら興味を持って始めたわけではなかった競歩ですが、実はやめようと思ったことは一度もありません。競歩という競技が自分の性格に合っていたのだと思います。人により体の特性は異なりますが、その特性に合わせて、ルールに沿った競歩のきれいなフォームを時間をかけて磨いていくことにやりがいを感じ、現役時代は「もっと上手になりたい」という一心で取り組んできました。

陸上競技で唯一人からジャッジされることも競技としての面白さの一つです。技術判定があることで、単純にタイムだけを求めれば良いわけではなくなります。速さを求めながらも冷静に自分の技術を感じながら歩くこと、そして審判からのジャッジを素直に受け止めること、競技に対する心の持ち方も問われる競技です。

質問3 2024パリオリンピック「競歩」を応援する上で、10倍楽しむ方法を教えてください。

世界の上位選手は、一般的に50mを11秒後半というペースで20kmもの距離を歩き続けます。

歩くことは運動の基礎です。姿勢を大切にすることでどの種目の技術も発展します。

夫はよく「競歩は芸術だ」と言っていますが、だれが見てもきれいだと思われるフォームを目指すことが競歩の基本ですので、パリオリンピックでの各国の選手の美しい歩きのフォームは必見です。

また今年はインターハイチャンピオンの逢坂草太郎という選手が入部してきました。池田向希・川野将虎に続く、次世代の有望選手です。パリオリンピック以降もぜひ注目していただければと思います。

質問4 仕事と家庭を両立させる上で秘策は何ですか。

忙しくても夫と子どもたちのご飯は手作りするようにしています。日頃から食事は大切にしており、食育の一環でもあります。高校2年生の長男は埼玉県内の公立高校に進学し、陸上競技部で駅伝に取り組んでいます。朝練に出かける長男のために毎朝4時半に起きて、お弁当づくりをしています。中学3年生の次男は受験生で、こちらも県内の高校への進学を目指し、(埼玉県支部の皆さんおなじみの)北辰テストを受けているところです。子供たちには2種類の水筒を持たせています。ひとつは水や麦茶で、もうひとつは東洋大学の駅伝チームが飲んでいるものと同じ脱水予防の特製ドリンクです。福島出身の私からすると、埼玉の夏は驚くほど暑いので、特に夏は家族の体調には十分に気を付けています。

自分自身の健康法として、学生と同じようなフィジカルトレーニングを続けています。コーチ業も体力勝負なので、筋力を落とさないように気を

付けています。福島県の高校の体育教員時代、野外活動の授業を担当していたのですが、猪苗代町の環境や山道のアップダウンがトレーニングにとってもよいと感じて、今でも年に数回は合宿をしています。そのような自然の多い地域に行ったときは、何も考えずに自然の中に身を置く時間をつくることでリフレッシュしています。

質問5 埼玉県の印象について、教えてください。

埼玉県の住み心地はとてもいいです。夏はすごく暑いですが、他の地域と比べても晴れが多く、明るい日が多いと感じています。埼玉の大会では、すごく暑いなかで小学生も走って運動して、親も観戦していることに本当に感心しています。陸上競技部でも他の県から来た学生は確実に夏バテするなか、埼玉出身の学生はかなり鍛えられています。長距離でも競歩でも、暑熱対策が肝心ですが、埼玉の気温と湿度は順化にかなり役立っているのではないのでしょうか。

川越は歴史と文化があり、夫の叔母が今も住んでいる福島県棚倉町とは、江戸時代に15代棚倉城主松平周防守康英公が川越城主になったことが縁で、昭和47年から友好都市となっています。夫が東洋大学に入学し、川越で生活を始めたときに友好都市ということを知ってもらったそうで、川越には昔から親近感があります。川越市内には「棚倉町まであと何km」という標識があるのですが、いつも家族で楽しく見えています。川越は美しい街並みで観光客も多く、住みたいまちの上位にも選出されたようで、全国的に知名度も上がっていると感じています。全国各地に出張しますが、川越に住んでいると言うと、ほぼ100%「川越ですか、いい街ですね。」と言ってもらえます。

最後に、今後も日女の卒業生として明るく元気に爽快に、埼玉の暑さに負けずに頑張っていきたいので、埼玉のどちらかで埼玉県支部の皆様にお会いできることを楽しみにしております。



*今回は、大学第1期生インタビューと短大保育科の思い出を寄せて頂きました。

支部会の方々の近況報告

大学開校！学部黎明期の三年生 片倉 麗子さん（昭和41年卒学部）

大阪府出身、子どもの頃より活発で運動が好きだったこと、鹿児島出身のお母さまが日本女子体育専門学校（現日本女子体育大学）の卒業生であったことから1959（昭和34）年二階堂高等学校入学、松原の寮に入り体操競技で国体に出場するが短大入学前の合宿中に跳馬で膝の十字靭帯損傷の怪我をしたため競技生活を断念されます。1962（昭和37）年日本女子体育短大入学、芙蓉寮で必須科目のピアノに没頭し発表会に参加。卒業後、二階堂学園事務局に1年間勤務します。その間下北沢のお兄さんとの下宿先で後に夫となる片倉哲夫氏と出会います。1965（昭和40）年、日本女子体育大学が世田谷区烏山に開校すると同時に体育学部3年に編入します（日本女子体育大学第1期生）。悲願の大学開校でしたが、大学周辺は麦畑・キャベツ畑など農地で、施設は学生寮・陸上競技用グラウンド、南校舎のみで、大学1年入学生40名、3年学部編入生46名でのスタートでした。まさに黎明期の大学生活を体験されました。卒論は英語文献の翻訳にチャレンジし、卒論提出締め切り時間が迫り、警察に頼み込みパトカーで甲州街道を走りギリギリ間に合わせ無事に日本女子体育大学卒業！（1967年・昭和42年3月）

卒業後は、埼玉に就職し哲夫氏とご結婚。1967（昭和42）年埼玉国体、1967～1989（昭和42～64）年大宮西高校に勤務。家庭と仕事に奮闘される中、1982（昭和57）年に哲夫氏がご病気で亡くなります。当時二人の息子さんは小学校3年生と6年生でした。1989（平成元）年から浦和北高校勤務、2004（平成16）年3月ご退職、その後伊奈学園総合高校・大宮武蔵野高校に再任用として2年間勤務し教職を離れます。校務だけでなく、高体連などの数々の仕事に尽力し、女子体育指導者の道を切り開き後輩達の良きお手本でした。お二人の息子さんは無事成長し現在はパイロット、歯科医師としてご活躍されているそうです。

現在は、家庭菜園で野菜を育てつつ、チャールズ・リンドバークの『翼よ！あれが巴里の灯だ』の原書『The Spirit of St. Louis』*を、毎日のように少しずつ翻訳することをライフワークとして生活しているらしいです。「今日まで歩んできた中で二階堂高校・日本女子体育短期大学・体育大学で培った者が生きる上での芯となったのではないかと思います。高校・短大・大学生活で良い影響があったことと、物事を素直に受け入れて生きることが、その人の感性を育てるのではないのでしょうか。」とお話してくださいました。

※ピューリッツァー賞受賞（1954年）

聞き手 内田圭子（昭57卒）埼玉県支部役員



在りし日の松原校舎の思い出 中條 知津子さん(昭和44年卒短大保育科)埼玉県支部相談役

明大前駅の改札を出ると、直ぐ目の前に一際目を引く大きなパン屋さん。早朝から店内は焼き立てのパンを買うお客さんでいつも混みあっていた。美味しそうなパンが山積みされたガラス張りの大きいショーケースの向こう側に店員さんがいて、注文されたパンを紙の袋に剥き出しで入れて渡してくれた。勿論支払いもお金を手から手に渡すという時代。そんな古き良き時代の高度成長期。輝かしい未来が想像できる誰もが活気づいていた時代に私の「在りし日」が松原校舎から始まったのです。

それは57年前の春、私は18歳。当時の松原校舎は短大保育科、短大舞踊専攻科、附属二階堂高校等の校舎、附属みどり幼稚園園舎、短大生の寮が二棟、体育館、プール等が校庭を囲むように建っていました。かつてトクヨ先生が、この松原二丁目の地にあったバラックに二階堂体操塾を移転したのは関東大震災の翌年であったというのですから、それから45年の時を経て私はこの地に、日本女子短期大学保育科生として入学したことになります。プールの隣の古い木造二階建て校舎の二階が保育科の教室でした。学生達が歩く度にキシキシッと鳴る床の音が懐かしい。その昔、トクヨ先生が私財を投げ打って体操塾を創立され、後に日本初の女子体育専門学校に昇格、改称された長い歴史を省みれば、きしむ床の音も愛しいものですね。

保育科同期120名のクラスメイトと楽しい学びの日々の中で、私の幸運だったことの一つにダンスの授業があります。「戸倉ダンス」教授戸倉ハル先生はトクヨ先生のかつての教え子だそうです。いつも穏やかで笑顔で「ええです。ええです。」と太く低い優しい声で励ましてくださった真剣な眼差しが、やはり偉大なる人を感じさせました。「天野ダンス」教授の天野蝶先生は天野式幼児リトミック。トレードマークの黒いロングスカートに黒いベレー帽、天野先生が考案した太鼓はタンバリンのように片手で持てる太鼓。ドーンと鳴り響く太鼓の音と声高らかな先生の発令が体育館内に響き渡ると、私たちはピリピリと緊張感がマックスに。天野先生の教育に架ける情熱もマックスでした。「江口ダンス」教授江口隆哉先生のモダンダンス。江口先生の功績は日本でモダンダンスを定着させ、更に教育舞踊に新風を吹き込み、幼児教育の遊戯にまで影響力を広げて行ったことです。体育館に漂う先生方のオーラと迫力！その情熱に惹かれて必死に着いて行った私たちは緊張と躍動感に溢れ輝いていました。こうした在りし日の松原校舎での学びは私の原点となり、その後も歩みが続けられたような気がします。



令和6年度役員

No	役職名	卒業年	氏名
1	相談役	昭.44	中島 淳子
2	相談役	昭.44	中條 知津子
3	相談役	昭.47	熊谷 静代
4	相談役	昭.54	高橋 嘉子
5	支部長	昭.55	光野 敦子
6	副支部長	昭.48	緑川 加寿子
7	副支部長	昭.54	中野 幸江
8	総務	昭.57	内田 圭子
9	総務	昭.47	岩水 秋子
10	会計	昭.57	尾形 朱美
11	会計	昭.45	配島 章枝
12	会計監査	昭.47	滝深 早苗
13	会計監査	平.08	鈴木 祐子
14	理事(東部)	昭.59	塙 牧子
15	理事(西部)	昭.53	田中 美枝
16	理事(南部)	昭.59	渡辺 典子
17	理事(北部)	平.28	橋本 美加乃

*副支部長 緑川加寿子さん R6.6.20 ご逝去

埼玉県支部総会について

- 1 期日 令和6年8月18日(日)
10:00~12:00
- 2 場所 浦和コミュニティセンター
- 3 時間 受付 9:30~10:00
総会・講演会
10:00~12:00
- 4 内容
 - (1) 開会のことば
 - (2) 支部長挨拶
 - (3) 議長選出
 - (4) 令和5年度活動報告
 - (5) 令和5年度決算報告
 - (6) 令和6年度活動計画(案)
 - (7) 令和6年度予算(案)
 - (8) 規約
 - (9) 質疑応答
 - (10) 議長解任
 - (11) 閉会のことば



【講演会】1「パーソナルトレーナーの仕事内容について」講師 パーソナルトレーナー奥野 若菜さん

2 酒井瑞穂コーチ(東洋大学)取材報告

鈴木祐子さん(埼玉県支部役員)

☆講演会終了後、写真撮影を行います。その後、懇親会を12:30~14:00で予定しています。

懇親会会場 キャンティパパ 浦和駅東口 徒歩2分 TEL048(882)5911

《編集後記》

次年度も、会員の方々の近況報告をお知らせしたいと思っております。是非支部まで原稿をお送りください。

☆事務局 光野敦子 《Gmail アドレス atsukono10924@gmail.com までお願いします。》